

第4回「ポケモンGO」などスマホの進化が地域社会・地域経済に与える影響に関する有識者会議

テーマ「地域社会」

議事要旨

日時:平成29年1月30日(月)10:00~12:00

場所:危機管理センター(市役所4号館)1階 本部員会議室

【自由討議】

●塚本委員

- ・教育現場においてポケモンGOが問題になっている認識はあるか、竹内先生に聞きたい

●竹内委員

- ・現状で学校現場では、ポケモンGOは大きな問題になっていない。しいて言えば、若い先生の関心が高いくらい。ゲームとしてのターゲットは子供達でないと感じている
- ・子どもをターゲットにするのであれば、「今の世代」のポケモンを出してくるだろうし、トレードやバトルをできるようにするなど、二の手三の手が出てくるだろう。テレビ局と組んで、新しいポケモンシリーズを出すかもしれない
- ・現状では大きな問題にはなっていないが、準備が必要だと思っている

●橋本委員

- ・私もポケモンGOに関しては非常に不思議だと感じている。前身となっているインGRESは非常に戦闘的であった。ある種道徳的に運用している部分があるのかも思っているが、実を言うともっと恐ろしいことを考えているのかも知れない

●竹内委員

- ・道徳的に考えて、もしかしたら舵を切らないかもしれない
- ・ゲーム会社は戦略的に考えている。ポケモンGOも戦略を立てているのだろう。どの方向に動くかはわからないが、ゲームとしての可能性は高いので、大人側の準備は必要だろう

●塚本委員

- ・ポケモンGOに関しては、グーグルがナイアンティックを主導している印象を持っているが、何かそういう意味では、日本の社会事情よりはアメリカとか、海外社会事情のほうが今後の展開の影響が大きいのではないかと思う

●竹内委員

- ・当然、任天堂と、開発した海外の会社の両者の駆け引きもあるだろう。ただ、トレードやバトルなどは比較的容易にバージョンアップすることができるのに、やっていないのは戦略的なものかもしれないが、そのあたりはよくわからない。今後注視していかなければいけないなとは思っている

●塚本委員

- ・ポケモン同士のトレードに対しては、想定される社会問題がすごく大きくなりそうだとということで様子を見ているということかと思う
- ・この委員会としても、ポケモンGOに象徴される実世界型のスマホコンテンツが今後増えていったり、さらにそれをベースとした実世界の社会問題や、交通機関や商業地等とのリンクが出てきたときに新たに起こり得る問題や社会への影響などについて考える必要があるのかと感じている

●竹内委員

- ・今はポケモンGO等以外についても考える必要があると思う
- ・今の子供たちの間ではミックスチャンネルやツイートキャスティングなどが流行っているが、中学校の先生などの大人がこのことを知らない。まさにこの時間もネット上で生中継されているものがある。私達はまず現状としてこれらの事実を知らなければいけないと思う
- ・ツイッターが出会いの温床、売春の温床になっており、非常に問題だと思っている

●横山委員

- ・この会でもポジティブな面とネガティブな面の話がでてきているが、この点は今日の話聞いて、やはり非常に大事だと再認識しているところである
- ・だからこそ、ネガティブとポジティブとで二極化した乱暴な議論にならないように注意する必要があると感じている

●竹内委員

- ・私としても、コンピューターの可能性は非常に大きいと思っている
- ・ただ、危険も大きい。自転車の場合、最初は三輪車で次に親が手助けしながらコマなしの練習をする。ああいう段階がコンピューターやスマホにも必要だと考えている。日本は最初から今子供にスマホを全部与えてしまっている
- ・自転車のルールがあるようにスマホのルールをつくらないといけない
- ・ただ、大人が勝手に作っても今の現状は変えられないし、子どもだけに任せても無理だ。大人と子どもの協働が必要だ。神戸市で新しい方向性を作りたい

●塚本委員

- ・子供たちのスマホの常識、使い方が我々大人の想定とかなりギャップがある点に深刻さを改めて感じた
- ・この過去20年のネット社会は架空の世界が広がっていて、その中で人間の精神活動を吸い込んでいる点が非常に大きな問題だった
- ・逆にポケモンGOは実世界に人々を引きずり出すという点で、これまでとは違う問題をつくるかもしれない。ツイッターの問題では、実世界の側で新しいコミュニケーションのやり方が非常に深刻な問題を作り出しているが、ポケモンGOにも同じようなトリック、或いは危険性が潜んでいるような気がする
- ・神戸市として、問題となっているコンテンツに対して指導・規制を掛けていくような取組み、枠組みがあれば、議論のネタとして示していただければと思う

●品田座長

- ・前回まで地域経済、地域社会、そして今回の教育・子育ての3テーマでやってきたが、テーマごとにごく良いところ或いは恐ろしいところがあるわけで、これをいかにうまく、ほどほどに利用していく

かが大変大事なところと感じている

- ・行政としてどういう点に気を付けていかないといけないかという部分を提言に盛り込んでいければと考えている。また、竹内先生の話のように緊急性についても考えていかなければいけない

●久元市長

- ・光と影のそれぞれの立場でかなり議論が噛み合っていると感じ、非常にありがたく思っている
- ・本日伺った話は初めて耳にした話がほとんどで、実態について認識は新たにさせていただいた
- ・これらの実態はできるだけ多くの方に知ってもらいたいと思うし、知ってもらうための努力も必要だろうと思う
- ・5回目でまとめていただく提言に際し、神戸市政として神戸市民としてスマホに対して、「基本的にこのようなスタンスで向き合っていく」という大きな方向性をおまとめいただければ大変ありがたい
- ・また、もう少し具体的にやったらいいようなことを御提言いただければ大変ありがたいと思う。行政はどのように日々進化するスマホの技術をキャッチアップすべきかという方法論や、それを使った地域づくりなどへの利活用方法、影の部分に対して行政としてどのような取り組みをすべきかというようなものが考えられるが、それを受けて具体化させていきたいと思っている